

特別賞

水の大切さ

港南中学校 三年 田中 航

僕は毎日、水を利用して生活しています。排泄として使ったり、飲料水として飲んだりしています。ましてや、人間は体の約七〇パーセントが水できているのです。

しかし、このように自由に水を使って生活できるのは、水をしっかりと使うことのできる環境が整っているからではないかと僕は思います。その一方、世界には環境が整っていない国もあり、水不足が起きている国もあると思います。例えば、オーストラリアです。僕は小学六年生の頃に、海外派遣で十日間オーストラリアにホームステイをしました。そこでは、お風呂には入らず、またシャワーは三分間と制限されていました。オーストラリアは国土の三分の二以上が砂漠となっていて、また半分の地域が年間を通して雨が少ないそうです。そのため、お風呂にも入らずに、シャワーの時間が三分という、節水しなくてはならないのです。

その他にも、沢山の国で水不足が発生しています。そこで僕たち港南中学校は、今年の一月に年賀状の書き損じと使い残しはがきを集めてユニセフ協会に寄附する「はがきチャリティ」を行いました。すると、生徒だけでなく先生たちからも沢山のはがきが集まりました。このことよって、はがきが募金に生まれ変わると、一枚で下痢で体から水分がなくなり命を失うことを防ぐ経口補水塩が五袋分に相当するそうです。汚い水を飲んでしまい下痢によって脱水症で命を奪われている子どもたちを救うことができるそうです。

世界では水不足だけでなく、地球温暖化によって海面が上昇してしまい生活の場が失われつつあるツバルなどの国が世界各地にあります。

これらのことより、水も加減が重要だということが改めて分かりました。多すぎても困るし、少なすぎても困ることです。また、一人一人が、環境問題として水に対する意識を少し変え、世界で水不足で困っている人もいることを頭の片隅にだけでも置いておくようにして、日々の水の使い方を考えて環境問題をもっと身近に思い生活していこうと思います。